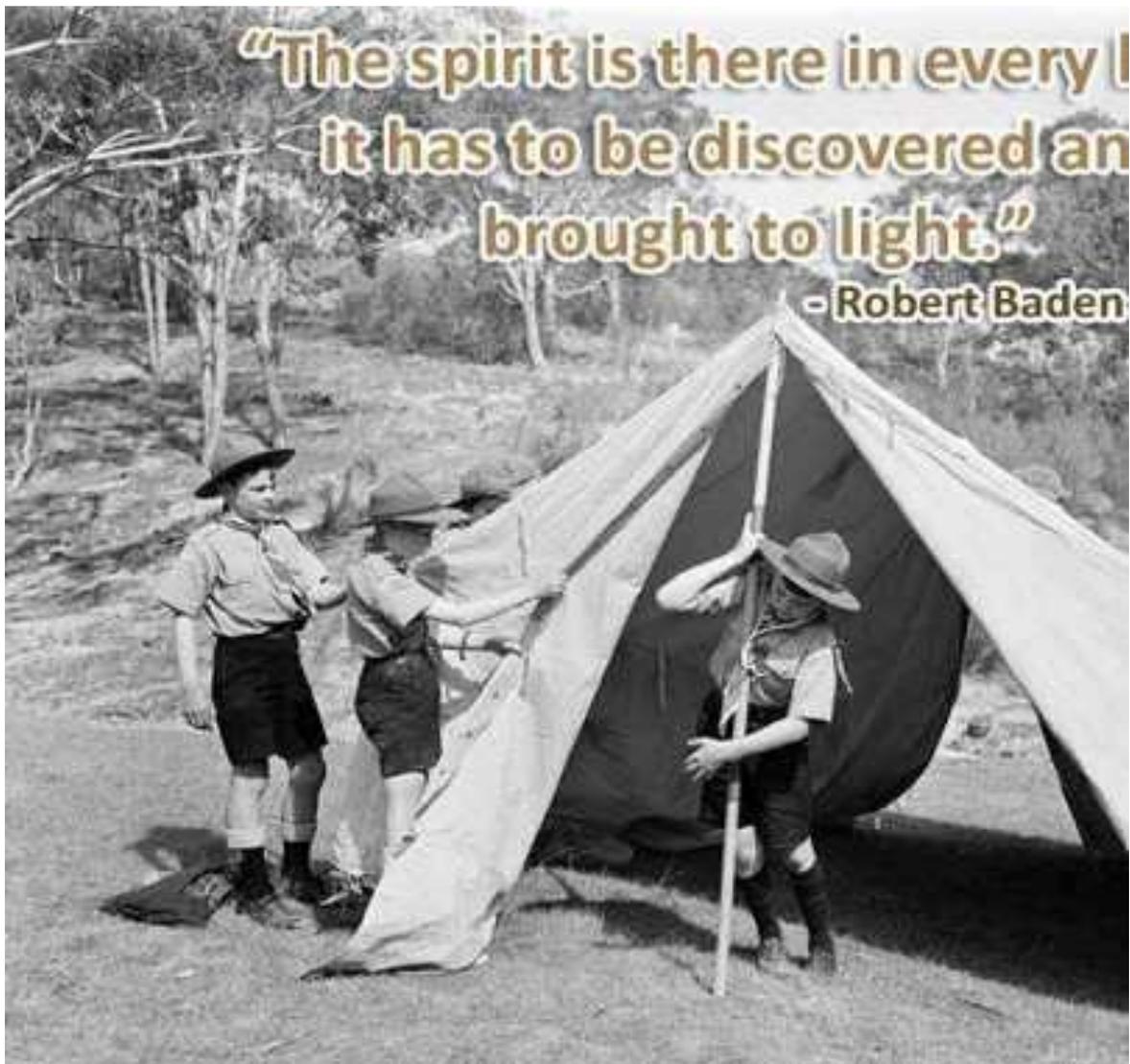


団活性化への取り組み

= 途中退団阻止の施策 =



平成 25 年度 一般社団法人 日本ボーイスカウト静岡県連盟

地区推進委員会

目次

1 静岡県連盟スローガン・重点目標	2
2 A 団活性化への取り組み（途中退団の阻止の施策）	3
団委員長が語る途中退団の阻止への対応考察	15
隊長が語る考察	17
3 B-1 上進時など途中退団申出への対応考察	19
4 B-2 カウンセリング事例集	28
5 団年次総会に招待された挨拶の中で	36
6 ケーススタデー(1)	38
ケーススタデー(2)	39
7 団委員長からの手紙	43
8 編集後記	45



スローガン

「地域社会に根ざすスカウト運動の推進」

重点目標

1 節度ある行動と実践

おきてを忠実に実践しよう

2 未来を担う指導者の育成

ユース年代の活動に支援しよう

地区推進委員会

県内各地区及び各団におけるスカウト運動の維持発展に向けて、具体的な支援策について取り組む。

① 途中退団阻止の施策

地区から団への支援策についてその方法、内容等を検討し、具体的に地区が団へ支援出来るようにする。

② 県連盟内の各地区及び各団の一体感の醸成を図る

東・中・西の各ブロックで開催する団委員長セミナーにおいて、県連盟の事業方針を詳しく説明し、現在のボーイスカウト運動が抱えている課題について共通認識を深めると共に、県連盟、地区、団が一体感を持って取り組むことが出来るように努める。

A 団活性化への取り組み(途中退団阻止の施策)

伊東地区

団への支援方法

平成 25 年度事業の基本計画に次の 4 点を挙げ、

1. 組織拡充 スカウト募集業務の立案等 指導者のスキルアップ 団委員の充実、伊東第 2・3・5 団の活動区域の見直し 募集窓口の組織化 地域との協働
2. パトロールシステムの充実 合同集合の開催 パトロールシステムの徹底
3. 高度な基本プログラム展開 天城耐寒野営の開催 プログラムとリンクさせて…
4. 鼓笛隊の充実 指導者育成組織を設置 ベンチャー・ローバープログラムの立案等

団へ支援を実施する。

良い活動が全ての源泉であることを念頭に、地区コミッショナーと団結して、最重要事業とする。地区組織拡充委員に団委員長を充て、年 4 回の会議、集会を実施、諸問題に対応する。

団委員長ラウンドテーブルを団担当コミッショナーを座長に年 3 回開催、懇談、研修する。

	地区委員長 (運営)	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・団の組織、財政の問題点の指摘、アドバイス ・団の組織規模に応じた負担金の設定 ・指導者研修の費用負担、表彰等 ・個人としての支援は、求められれば許される範囲で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者のスキルアップ ・パトロールシステムの充実 ・合同集合の開催 パトロールシステムの徹底 ・高度な基本プログラム展開 天城耐寒野営の開催 ・鼓笛隊の充実 指導者育成組織を設置
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員会訪問 地区及び地域の置かれている状況について説明、団拡充のお願いをする。 (地区委員長、副委員長、地区コミッショナー、団担当コミッショナー。求められれば、指導者の派遣も検討する。) ・団の地域活動応援 人数減少で厳しい地域行事の参加協力。地区で調整し必要な資材(旅費)も合わせ動員する。併せて、PR 活度も実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・団訪問 団担当コミッショナーと共に

- ・団会議時に保護者も参加してもらい、スカウトの状態等を伺っている。
その結果を、隊長にフィードバックし活動に生かしている。
- ・団活動についてのニュースレター(年 4 回)の発行

三島地区

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員長ラウンドテーブル ・団委員長との懇親会 ・地区コミとの協働 ・地区委員会での情報提供 ・地区行事の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・R T、指導者研修会等での隊指導者への支援 ・隊指導者のスキルのレベルアップ支援をおこなう
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・団担当コミ主導による団委員長ラウンドテーブルの開催 ・懇親会での人間関係の構築 ・地区委員会で県連や他地区・他団の活動の事例報告 ・地区行事の物的人的支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・団担当コミと協働し、隊指導者自らが中途退団阻止への問題意識をもち、楽しいプログラム展開ができるように支援する ・隊指導者、団指導者へのスカウティング参加に対する個別支援

沼駿地区

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年度重点目標の設定 ・団委員長集会での支援 ・団訪問による支援 ・顕彰制度を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・隊指導者への定型外訓練(ラウンドテーブル含む)による支援 ・隊指導者へのインサービスサポート
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年度重点目標で途中退団阻止と、保護者との信頼関係構築を掲げ、目標を明確にすることで、地区内の共通認識を図る。 ・団委員長集会にて、保護者との信頼関係の構築の重要性を認識させ、その具体的方法を全員で検討する。 ・家族表彰を設け、家族ぐるみで加盟することを推奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるプログラム展開を推進する。 ・隊指導者のモチベーション向上及び維持

御殿場小山地区

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員長ラウンドテーブル ・団委員長懇親会 ・団訪問 ・地区委員会 ・資料配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員研修会 ・団訪問 ・隊指導者研修会
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係構築 ・心構えについて ・団の業務についての確認 ・スカウティングの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なスカウティングの奨励 ・人間関係の構築 ・モチベーションの高揚 ・個別支援

富士地区

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月開催の地区委員会、団委員長会議と隔月の団委員長ラウンドテーブル ・団担当コミッショナーと同行の各団訪問 ・各団総会に参席して、県連スローガン、重点目標を伝える ・年3～4回の育成会長懇話会開催の折県連スローガン、重点目標を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月開催の地区コミ会議 ・部門別ラウンドテーブルを通じて、中途退団阻止の考えを浸透させる
支援の具体的内容	<p>特に、団委員長ラウンドテーブルで、具体的方策を討論し、団ごとに援助する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 夏キャンプ等でスカウトと個別に面談して、現状の上のクラスの魅力を伝え上進を促す 2 上進時期前にスカウトに個別にスカウティングの素晴らしさと励ましの手紙を渡す（出来れば団委員長の手書き） 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の地区委員会前の副委員長との事前打ち合わせに、コミッショナーも参加して、運営側との共通認識を持ち、中途退団阻止の問題をリーダー側でもまた、部門間で（各団ごと）危機感を持って対応してもらう

富士宮地区

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーイスカウト運動のPR ・費用の軽減 ・団委員会、団会議のあり方について支援 ・各団の現状調査および問題抽出を支援 ・問題点に対する対策を支援 ・顕彰制度の設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員長の個別支援 ・団委員長ラウンドテーブルによる支援 ・団指導者を対象にした研修会 ・団訪問による支援 ・隊訪問による支援 ・教育規程に則った活動の支援
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて途中退団阻上ができた団の表彰制度を設立する。 ・地区行事への保護者の参加見学を推進。 ・各隊集会への保護者の見学を呼び掛ける。 ・地区全体で当運動に対しての説明会。 ・定型訓練参加者への費用助成。 ・学校との密接な連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上進スカウトの顕彰制度を設立する。 ・菊、隼、富士スカウトの市長表敬訪問を行いボーイスカウトをPRする。 ・保護者に対して、指導者が、ボーイスカウト運動の魅力、利点をわかりやすく説明できるように支援をおこなう。 ・各種会議の役者1と指導方法の支援。 ・隊指導者、団指導者に対する個別支援。

清水地区

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員長ラウンドテーブルを年2回開催 第1回 4月実施 各団の活性化について具体的な事例の紹介 地区への要望、各団の今年度の重点目標、団委員長としての目標発表 第2回 10月 目標に対する評価発表予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・各隊へ、毎月の「隊集会」「班集会・会議」の実施計画書の提出を求める。 ・その内容により支援を行う。
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ビーバー、カブの活性化に重点を置く。またカブからボーイへの上進の意欲向上のため、地区行事としてビーバーカブディのイベントを行う。スカウトフェアを兼ね、16NJの活動報告展示を行う。 ・団委員長会と地区委員長共催で、一泊自由キャンプを行い、隊指導者にも参加しコミュニケーションを図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隔月にラウンドテーブルとリーダー会を行う。 ・リーダー会議では、自隊の問題点、「なんで」など隊、または班、組の運営、指導について話し合い、担当コミから具体的なアドバイスを伝える。（今年度は出席者が増加） ・地区イベントにコースチーム、ベンチャースカウトを活用していく。

静岡地区

- 1 月次開催の地区協議会（団委員長 RT）での支援と団委員長への個別支援
 ・ ・ ・ 各団の途中退団の現状把握と対応策の協議
- 2 隊指導者のスキルアップの支援 ・ ・ ・ プログラムの活性化、指導者の成長
- 3 顕彰制度を設ける ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 増員計画達成団の地区表彰など

	地区委員長（運営）	コミッショナー（教育）
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中途退団の理由をしっかりと把握する。その上で対応策を協議 展開：各団委員長と中途退団阻止のための心構えを一つにする ・ 団担当コミと共に、団訪問を実施し、団委員会での支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ RTでのスキルトレーニングをはじめ、定型外訓練の提供で、隊指導者のスキルアップ支援をおこなう ・ 各隊長に対して、中途退団阻止のアドバイスを支援をおこなう

- 1 隊指導者に進級の大切さを再認識してもらい、スカウトの進級意欲を向上させる
 ・ ・ ・ 進級を目的とすることで、プログラムの活性化、上進意欲の高揚（指導者の資質向上が重要）
- 2 少人数化がネックとなり、生じている問題（班制教育が出来ない等）の改善支援
 ・ ・ ・ 団でできないことを地区で対応

支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隊指導者に確実な班制教育に立脚した実効ある進歩制度が中途退団抑止の最大の武器であることを、各団委員長を通じて理解してもらう ・ 地区委員会を再構築し、指導者養成と進歩の支援を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門ごとに地区合同で行うプログラムの提供 BVS ・ ・ ・ ビーバー大集会 CS ・ ・ ・ 上進集会/DL研修会 VS ・ ・ ・ 地区VS活動等 ・ 保護者に向け、一貫教育の大切さを説明できるよう指導者を支援
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

退団原因(5大要素)

- ① プログラムが面白くない
- ② 隊長が嫌い
- ③ 部活動やスポーツクラブが忙しい
- ④ （塾や自習の）受験勉強をしっかりとやりたい
- ⑤ 経済事情が許さない

志太地区

地区委員会（団委員長と地区役員会）・・・毎月第3木曜日定例会議にて、各団の追加登録の発表（退団や活動休止スカウトは年度末に集中のため）や友情章申請状況発表。各団の活動の様子発表。

地区として各団が同基準で地区行事に参加するよう配慮。

各種表彰や伝達は、スカウト達の目前（地区大会、一日スカウトデー等）で行う。

登録時、継続登録が100%に近い団を特別顕彰（定時表彰への位置づけ）

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・新規 団委員長研修会 団委員研修会 企画立案 年3回・1回（内1回は懇親会） 招集：団担当コミッショナー 目的：団委員長間の親睦交流、団運営の情報交換により活性化を推進する。 ・新規 地区全体研修会 年2回 招集：地区協議会長 目的：各団の指導者、団委員間の親睦交流。 各団の情報交換。 	<p>テーマ：指導者のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ25 部門別リーダー会議(定例) BVS/CS 部門 第2水曜日 BS 部門 第2火曜日 ・隊指導者の定型訓練参加計画プログラム作成 ・16NJ リーダー教育 ・コミュニケーション能力向上研修 退団申出スカウト、保護者へのカウンセリング能力養成を中心に ・WTW2013 プロジェクトへの積極的取組 台湾・台中市童軍のホームステイ受入と交流

- ・コミッショナー集会における「感動を与える上進式セレモニー」の位置づけ
- ・各種バッジ、章の効果的授与（TPO）
- ・友団スカウトと交流

支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区イベント（BS 夜間ハイク、カブビーバーデー、16NJ 結隊式・壮行会など）は部門担当コミと協働 ・各セレモニーへの参加 ・団委員長や指導者とともに保護者、スカウトへの祝辞またはメッセージカード伝達（名刺判・ラミネート加工・四葉のクローバー押し花等） ・各団の各種セレモニーの方法を紹介、また参加招待の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例部門別指導者会議で「ほうれんそう」の完全実施（参加率向上と各リーダーの意識改革） ・各セレモニーへの参加と評価反省 ・台湾スカウトとの親善交流会企画 ・ホームステイ企画、評価反省
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

島田地区

基礎基本として据える

地区委員会に各団委員長がしっかりと出席、参画し、プログラムの展開ができることが一番大切である。・・・自団への自信

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の各隊の隊集会の活性化に対し、団委員長として支援を確実にするように、団委員長会議にて指導する ・年一度の地区役員全体での懇親会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・隊活動の内容を把握し、活動の質の向上を図り、スカウトと保護者に、「成長の実感・活動の素晴らしさ」を理解してもらえよう、指導者と共に行動する
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各団の団委員会に参席して、アドバイス、指導をする ・運営畑の団委員に支援方法を指導する ・団役員が多数参加する団委員会になるよう指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ・隊訪問や活動サポートを昨年以上に行い、インサイドサポートに努める ・活動の目標を毎回の活動に取り入れられていることを確実にする ・成長の実感や活動の良さを実感、理解する機会、手法を定型外訓練やRTを通じて指導者に普及する ・少人数隊に対して、合同隊集会を実施するようサポートする

掛川袋井地区

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者と運営側との役割の明確化 ・団会議、団委員会の役割と運営の違いを理解させる ・指導者の選任と育成の重要性を理解させる ・団委員長との個別面談による支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランに基づいた取り組みを行う ・魅力あるスカウトプログラムの作成 ・隊指導者と保護者との関わりを深めさせる
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員研修所への参加促進 ・団委員長RT、地区委員会での研修 ・団において指導者履歴、研修履歴の管理をし、3年～5年計画で次期候補者の育成計画を立てさせる ・隊訪問を実施し隊活動の現状把握に努める様促す ・保護者会等に積極的に参加し意思の疎通を図る事を勧める 	<ul style="list-style-type: none"> ・団訪問（隊訪問）を実施し各隊のプログラムの検証をする ・団訪問（隊訪問）を実施し保護者会の開催の必要性を説く ・県連盟・地区主催の各種研修への参加促進

磐田地区

- 団委員長連絡会での支援
- 団委員ラウンドテーブルでの支援
- 団委員長への個別支援

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員長連絡会で講義を行う ・団委員ラウンドテーブルの開催 ・団委員長への個別支援 ・団委員会訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員ラウンドテーブルでの支援 ・地区団委員セミナーの開催 ・隊訪問 ・団委員長への個別支援(団担当コミ)

- スカウトに上進意欲を持たせる
- 各団に上進に対する重要性を認識させる
- 委員会とコミグループの連携を密にする

支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・団委員ラウンドテーブル年2回開催 ・団委員会訪問で上進の重要性の話をする ・各団の状況をみて支援策を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区行事にベンチャースカウトを参加させスカウトの憧れを演出 ・ラウンドテーブルで上進章集会の意義や開催方法等について討議 ・地区リーダー会で上位隊への見学を推奨(同一場所でキャンプの開催等についても推奨)
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

浜松地区

- ・「より良いスカウティングをより多くの青少年に」のテーマで何を重点目標にして進めてゆけば良いか？
- 運営グループとコミグループをまたがった「実践躬行特別委員会」のタスクチームにより
- 長期のあるべき姿を明確にした上で、
- 今年度 何を何時までに実施するか明確に定め活動 → (途中退団阻止に関わるもの)

組織	<p>指導者</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い、動ける 6割が実修所9割が研修所 実力的に資格が維持 保護者に理解される言葉で意義を話せる 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の平均年齢毎年上昇 実2割、研4割 定形外訓練等への参加消極的 ？ 	<ul style="list-style-type: none"> スカウト経験者のリーダーが少ない。 研修所、実修所の必要性が理解されていない。 自己研鑽の必要性が理解されていない。 ツールがない。 	<ul style="list-style-type: none"> スカウト経験者をリーダーに上進させる！(RSの活性化) スカウティングおもしろ塾(指導者版): 12/21太田山 指導者が積極的「スカウト活動」に関与しようと思える「激文」(渋谷コミ) 率先垂範... 団委員長、団委員長実修所団委員長/副団委員長/組長: 団委員長研修 PRツールの作成(5分、30分、180分、360分) 	<p>地区コミグループ担当</p> <p>トレーニングチーム担当</p> <p>地区コミグループ担当</p> <p>地区委員会担当</p> <p>組織拡充委員会担当</p>
	スカウト	BVS(70%)、CS(80%)、BS(40%)、VS(?)	部活への参加が優先。塾への参加が優先。		地区コミグループ担当
	全団魅力あるプログラム展開	?		各隊プログラムの閲覧	地区コミグループ担当
	<p>団</p> <ul style="list-style-type: none"> 全隊が揃いOB会もある 団委員25名以上 地域社会と連携している 				地区委員会担当
	<p>地区</p> <ul style="list-style-type: none"> 全団完全団10団で1000人 加入率3%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 完全団4/10(629名) 0.87%(スカウト203名/児童23295人) 			組織拡充委員会担当
	親の資金により自立している	<ul style="list-style-type: none"> 行政からの補助は極僅か(浜松地区で18万円/年)事業への補助。 			総務委員会担当
	財政				
	ライオンズ、ロータリーからの補助が沢山貰える	<ul style="list-style-type: none"> BS指導者に給料が出ているとの誤解(実際は持ち出し) 財政的には習い事に連せず、少年団と同等。 働きかければ少しは出るが財政状況が厳しく、昨今は希望していない。 			総務委員会担当
	広告が大々的にできる	<ul style="list-style-type: none"> ほぼなし(費用大で出来ない) 			組織拡充委員会担当
	ボーイスカウト部が出来ている	<ul style="list-style-type: none"> 日本ではない。(インドネシア、シンガポール、フィリピン、スリランカは部活、リーダーは教師) 			

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	1:積極的広報活動の展開による 社会教育団体としての認知度 アップ 3:指導者の発掘と資質の向上支援	2:一貫教育であるボーイスカウト活動の認識アップ 3:指導者の発掘と資質の向上支援 4:魅力あるプログラム展開支援

1:広報インフラ整備

2:スカウティングおもしろ塾(一貫教育 PR 360分バージョン)

支援の具体的内容	1-1:入団案内所(たて看板)整備 1-2:「今さら聞けないボーイスカウトIT教室(対象団委員長、組長)」開催 →各団 IT化 . →各団 HP(ブログ) (最低、2週間に一回更新) 2-3:一貫教育PRツール作成 (5, 30分バージョン) 3-2:率先垂範(団委員研修。実修)推進	2-1:出前「スカウティングおもしろ塾」 2-2:繋ぎの集会開催推進 ビーバー → カブル リスの道(wel ビーバー) カブ → ボーイ 上進章集会(wel カブ) ボーイ → ベンチャー(wel ボーイ) 3-1:RS部門活性化サポート(活動費) 3-3:スカウティングおもしろ塾指導者版 4-1:各隊活動プログラム DB化
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

浜松東地区

	地区委員長（運営）	コミッショナー(教育)
団への支援方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎月開催の地区委員会議以外、団委員長懇親会の開催 上進スカウトの顕彰（菊・隼・富士スカウトの市長表敬訪問） 新団発団への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 隊指導者部門別リーダーへの個別支援 定型外訓練 新団発団のためのリーダー養成
支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> 市長表敬訪問でスカウトのPRを行う 来春新団発団予定地区への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 太田山にて隊指導者へのスキルアップの支援 各隊指導者の基準の維持

浜北・天竜地区

- | | |
|----------|---------------------------------|
| ①財政 | 財政基盤の確立 |
| ②広報 | 団PRの手段 |
| ③スカウト教育 | 地区内顕彰制度(市長等訪問)
ユース年代への補助(支援) |
| ④保護者への説明 | 保護者への説明手法 |

	地区委員長 (運営)	コミッショナー(教育)
団への支援方法	①財政 育成会費等の妥当性の確認 ②広報 HP、BLOG等の研究会開催 地域での知名度向上法勉強会開催	<ul style="list-style-type: none"> ・年間プログラムと実施計画書のチェックの徹底 ・プログラム委員の明確化と活用 ・若手指導者の発掘と育成 ・保護者との会話による要望の収集

スカウトが参加したくなる楽しいプログラムを立案できるよう指導者のスキルアップを図るための定型及び定型外訓練への積極的な参加は、団委員長の責務であることを総会等の席において説明している。

地区コミッショナーと連携して、各団の該当指導者を掘り起こし、団委員長に参加させるよう働きかけている。

支援の具体的内容	①財政 (財政的に継続が難しい団に対し) ・育成会費等の妥当性の確認 他団の財務内容を研究し、自団の財政内容を再確認させる ②広報 ・HP、BLOG等の有効性の研究 ・地域での知名度向上法の勉強 地域に根差した一般参加型プログラムを作成し、地域への知名度の向上を図るとともに、募集への効果的手段とする(公民館活動との連携)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者に対するプログラムプロセスの必要性の説明とプログラム作成の訓練 ・スキルトレーニングの実施 ・ローバー年代スカウトの指導 ・保護者との面談の実施
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

団委員長が語る、中途退団の阻止への対応考察

ア

上進による中途退団をなくすため、スカウトに積極的にアプローチし、余程の理由のない限り非継続とはせず、スカウトに活動への出席を求め、余裕をもつて状況が改善することを求めています。

また、スカウトの退団に対しては、スカウト自身が班員等に直接説明ができ、説得する努力を行い、班員等の了解が得られ、かつ、隊長や団委員長に退団の理由説明が出来、止むを得なければ、退団を承認しないこととしております。

これは、スカウトが自分の問題を保護者や第三者の力を借りて、自身の努力をせずに、他力本願による解決を避けたいと思うからであります。

少なくとも退団の理由や意思を自ら表明し、関係者の了解を得る努力をすべきであり、この方法が、スカウト教育の本旨と考えるからであります。

問題解決に自身の意志を表明し、努力し、関係者の了解を得、様々な解決策を労し、努力した結果の解決は、長じてから役に立つと思います。

イ

ローバースカウトが活動できる条件の一つは、市内に就業できる社会環境が整っていないことがあると考えます。ローバースカウトの活動が、ベンチャースカウトの意欲の停滞を余儀なくされ、上進に期待を持たず、活動が衰退していると考えます。

ベンチャースカウトの登録人数の少ないこともその理由であると考えます。

ベンチャー隊長の業務多忙もスカウトとの交流の時間を持たず、スカウトとの意見交換などに齟齬をきたし、ニーズの把握や活動意欲の停滞に拍車がかかり、状況が悪化していると考えます。ベンチャースカウトなどの活動の状況は、カブスカウト等の将来に対する期待の幻滅に繋がるのではないかと感じております。スカウト活動を活発にするため、今後組織の融通を図り、団委員会に諮り各隊の人事に改善を求め、団委員の役務を改善してゆく所存です。

ウ

- ・ 団活動についてのニュースレター(年 4 回)の発行。募金活動の後、成果が確認出来た時点で金額等をスカウトに葉書で知らせる等のタイムリーな広報を文書で送付する事で、保護者を含めた興味を維持する様努めている。
- ・ 団は小規模団であり、組・班対抗、相互刺激となる活動が出来ないので、友団のご支援を得てより大きな仲間との活動を経験させる様努めている。
- ・ 昨年度退団した BS 隊長〇〇. が、スカウト募集より指導者の募集が先決で指導者増が出来ない限りスカウト募集には BS 隊として一切協力できないとし、募集活動への大きな障害となっていた。CS 全員の進後 CS 隊を休隊し、後に続くスカウト無しに団を維持する事が不可能な状態に陥っていた。今年度同隊長の退団を機にこれまで候補として声を掛けていた BVS/CS 年代の児童を 6 名入団させ、団活動に関し換骨奪胎の改革を実施、同隊長の影響を一切排し本来的活動を再開した。幸い地区委員会及び、地区を越えた友団からご理解を戴き、指導者の転団、友団活動への参加の機会を賜り、小規模ながら旗と灯火を維持する事が出来ている。

・ 16NJ に際しては参加 VS〇〇君の経験談を CS、BS スカウトにスライドショー等と共に直接話をさせ VS 上進への興味を促進する活動を実施した。今年度 VS に上進予定の中 3 年 BS が 3 名所属しているが、学業及び部活多忙を理由に参加率が低下している。この機会を捉えその様な状況を VS〇〇君に理解して貰ったうえ、上進予定の BS 達に VS の意義、楽しみ等を直接語ってもらった。本年 9 月の VS への活動継続について可成り良い影響を及ぼしてくれたと考えている。

エ

・ 隊長とスカウトの家庭とのつながりが欠落している事、団全体が情報の共有が出来ていないことや、役割分担が不十分で、団委員長を始めとする各組織のフォローのまずさが原因であると思います。

問題の解決は、団委員長のフォローだけでは、解決を図ることはできません。ご家庭に訪問することが大切であると思います。

オ

平成 2 年になぜデンマザー制度を取りやめたのか…………… ?

スカウト数の減少の状況を作りだした理由の一つに、デンマザー制度のメリットの分析が充分でなく、現場の意見を集約して結果を導くべきで有ったと思っております。

デンマザー制度のメリットは、スカウトが組長に任命され、それにつれて母親がデンマザーとなり、次長に任命されたスカウトの母親もデンマザーの補助者として組織への積極的な参加と維持を図るため義務感が組織の活性化に寄与していたと思います。

母親の持つ細やかな配慮による保護者同士のコミュニケーションの保持による情報交換や、プログラムへの参加意識・情熱・組織への参加拡大の大きな力であったことは、事実であります。

各隊の隊長の任務の一つに、スカウトの成長等の報告、隊長と又は団委員の誰かとスカウトの家庭との繋がりが必要であることを感じておりますことを報告いたします。

カ

スカウト募集については、団内に投げかけ対策を講じていますが、団組織員の高齢化による、対象者との接触が少なく、PR 不足であることは否めません。

現状、各指導者の取組が主な動きとなっており、実効はなかなか上がらないのが実態です。

団全体の取組は、絶対必要であり、今後改善を図ってまいります。

キ

総評ですが、ここ数年は継続するかどうかの相談より、辞める決断をした後に辞める報告みたいな相談です。したがって、何を言っても結論は変わりません。

ク ……………隊長が語る考察……………

- ① ボーイスカウトの活動はきれいではないが どうしてもスポーツ少年団（サッカー）との両立がむずかしいのでやめさせてほしい。
- ② 仲間の輪の中には入れないことを理由に。（指導者の立場では デンリーダーをはじめとして常にサポートをしていたが 自己中心的であり 気に入らないとすぐすねて 駄々をこね 活動に支障をきたすことも・・・）

① 集会だけがスカウト活動ではない

このような話を保護者がする時は まずは『活動は楽しいが 試合が重なると来ることができなくて迷惑がかかるためやめたい』という場合が多い。

そのようなときは 必ず まずは『集会になかなか参加できなかったとしても 隊としては 参加できるときに参加すればいいし 隊長としては 集会に出てきているときだけが スカウト活動ではなく サッカーを頑張っていることも スカウト活動だと思っている。』と決して頑張っていることに否定はしない。今はサッカーを頑張る時期 それでもこのスカウト活動がよい活動であると理解している親は この時点でもう少し頑張ってみるといつてくる。

また この活動は 長く続けることに意味があり 特にボーイ隊の年代が人間形成にもっとも大切な年代であることから カブの年代でやめてしまうことほど意味のないことであることを伝える。

カブの場合は 子どもへの説得というよりも いかにも保護者に理解をしてもらわなければならないと考える。

② 家庭の問題

家庭環境に問題があって(最近は母子家庭が多い)父親の存在をボーイスカウトに求めてくる。

また 発達障害(ADHD)や不登校の子ども 人とのかかわりが苦手な子どもが 最近ではとても多いと感じる。この活動に参加させることで解決を求めてくる傾向が多い。

子どもが行くのを嫌がっているという理由で やめたいという母親にこんなことを言ったことがある。

『お子さんに必要なことは人とのかかわりができるようになることだと思いますか』と話したところ

『そのとおりです。もうしわけありませんでした やはりつづけさせます』と言ってきた。

一つ間違えると お叱りをいただきそうだが 大切なことは 指導者が本当にそのスカウトのことを思っていて行動しているかだと思う。

③ 日々の活動を充実させる一楽しくて 有意義な活動を一

たとえ どんな理由があっても退団したいと言ってきたとしても、

一番大切なことは、保護者にスカウト運動をきちんと理解してもらっていたかどうかであり、日々の活動が、まずはスカウトにとって楽しいものであり、それに加えて、有意義で 子どもにやらせたいと思う内容であることが一番大切であると思う。

どんなに言葉巧みに 保護者を誘導しても、スカウトにとっても保護者にとっても、その内容が価値のある魅力的なものでなければ伝わらない。

つまり 日々の活動を充実させていくこと それが一番の対策であると考えます。

私は 隊長をして5年目になるが 最初のころは、BSに上進しないなどといわれると自分自身のやってきたことを否定されるようで悩み苦しんだが、今はとにかく最善を尽くし、保護者にもよく理解してもらい、このような申し出があった場合は一度は必ず 退団を考え直してもらうように努めるそれでも再度退団したいということであれば、いつでも戻ってこられることを示唆し、退団を受け入れている。またそう決まったスカウトであって、今できることを精いっぱいおこない、カブ隊を卒業していくスカウトにやっていてよかったと思えるように愛情をそそぐようにしている。そして、思い直して、やっぱり続けると思い直し、現在も続けているスカウトもいる。

『最後まであきらめない』それがポリシーである。

ただ、これも集会にでて来ないとどうしようもないことで、たとえ退団を決めても、理解している親はきちんと子どもにけじめをつけさせ、残りの期間をできる範囲で最後までやらせるが、理解していない親は、なんとなくフェイドアウトしてしまい、それすらもできないこともある。

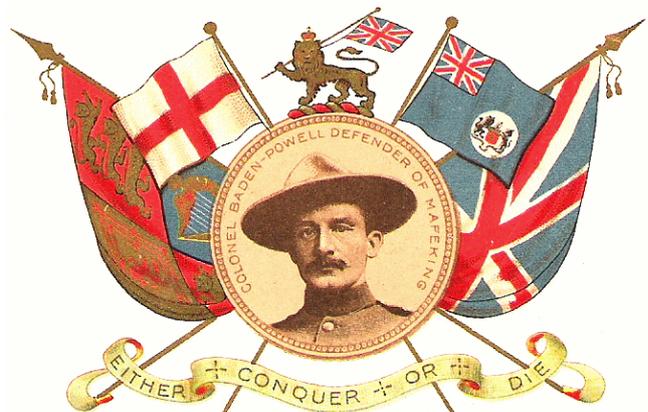
④ 各部門の連携の大切さ

カブ隊でいえば、ビーバー隊のスカウトが、カブ隊にあがる不安がないように『りすの道』を充実させたり、上進説明会を2時間かけてスカウト運動の理解、カブ年代における教育法の理解活動の方針の理解を促している。また、これら説明会は、部門ごとに実施しているが、必ず各隊隊長が参加する。ことにより相互の理解と協力をはかれるようになっている。

また、ボーイ隊へは、常に上進を意識しながら、5月～8月までボーイ隊と連携して、上進章集会をおこない、スカウトの意識の向上を図っている。

また、デンコーチの存在も大きく カブスカウトにとってはあこがれの存在であり、相互に影響しあひながら互いの意識を高めるのに役立っている。

この連携は、スカウト教育の一貫性を伝えるものであり、スカウト教育は、たんなる習い事ではないことを意味し、常に保護者には 先を見据えたうえで 続けることの大切さを発信するように努めている。



B-1 上進時など中途退団申出への対応考察

【入隊希望時】

① (P) **経済的負担が多いので、入隊を見合わせたい。**

(応 答) 団において支援対策を構築したらよい。曖昧のまま多額の負担があると考えている

保護者の軽減を図るために・・・

- ・ユニホームなど退団したスカウトから提供してもらい溜めおきを提供。
- ・兄弟で複数が入団する場合などの軽減措置を内規化しておく。
- ・ジャンボリー等大会参加費用には、地区や団、市などの支援があることを説明。

(志太)

【 BVS → CS 】

① (P) **父親が転勤(自衛官)なので辞めたい。**

(応 答) 相談受理時、スカウト活動の永続の有意性（生涯学習の一通過点であり、更に活動を継続することで人格陶冶を期することができる）を説き、転勤先においても、その地域のスカウト団で活動されるようアドバイスする。

（地区委員会等で話があった場合、相手先県連等への問い合わせを行う）(志太)

② (P) **親が、活動に参加できないのでこれを機会に辞めさせたい。**

(応 答) BV→CS 上進時、デンリーダーの役が回ってきそうな保護者に見られる。

先輩のデンリーダーさんを囲んで茶話会など設定して、歓談の機会を設けたい。お茶代は、団育成会費用など充当すれば良からう。その方の時間づくりや子供や指導者との協働の方途が見つかれば、重圧も軽減されるであろう。もちろんスカウト講習会参加をお願いしておくことが大切である。

(志太)

③ (P) **親の負担(scoutの送迎等)が多い。**

(応 答) スカウトの気持ちを考えてもらう。

指導者が送迎することを提案する。

(御殿場小山)

④ (P)

家庭の事情で送り迎えができないので、隊集會に参加が困難。スカウト活動が続けられないと悩み、相談を受けた。

(応 答) 【CS 指導者として】カブ隊は基本は親子で参加ですが、保護者会で事情を説明し、特例としてスカウトのみの参加を認める様にし、送迎については家のちかい副長が協力し対応した。結果スカウト活動が続けられるようになった。 (浜松)

⑤ (P)

CS 隊から BS 隊に月の輪の 2 名が上進する時に、CS 隊が兄弟 2 名だけになるので、保護者の求めている団体行動の習得が見込めないため退団したい。

(応 答) CS 隊員の募集を積極的に行う、BS 隊との合同隊集會を行う等の説明をした。結局、中途退団を止めることは出来なかった。ただ団として復団の可能性を求めて、夏季キャンプやハイキング等の活動時には必ず、案内や声かけを行っている。現在まで復団には至っていないが、活動時には気軽に声をかけてくれたり、行っている催しに参加してくれている。 (伊東)

【 CS 】

① (P)

4月にカブスカウトの母親より団委員長あてにメールで退団したいと連絡あり。

(応 答) 4月の初めのことであるため、登録したばかりであった。とにかく、「会って話しましょう」と返事を送信。

その後、スカウトの母と団委員長が話し合いました。母親はボーイスカウト活動には協力的で、いつも手伝ってくれていました。ゆくゆくは指導者か団委員をお願いしようと思っていたところでした。

理由はいろいろ話していましたが、結局はスカウト同志のいじめだったようです。スカウト活動ではないのですが、学校が同じ子ども同志で遊ぶことが多く、その時にいじめがあるとのこと。

団委員長と母親が長時間をかけて話しましたが、結局はやめることになりました。 (沼駿)

【 CS → BS 】

① (S &P) **部活動を休むと仲間や顧問がうるさいので、辞めたい。**

(応 答) BS 時、特に中学進学直後から夏休み過ぎまで、また、部活の中軸として活躍する存在になった場合・・・

- ・同じ悩みを抱えた先輩スカウト、退団してしまったスカウトなどの話題を提供して考える機会を与える。(団委員・指導者―スカウト・保護者)
- ・特に近隣団、同中学で部活動を共にするスカウトがいたら相談してみるよう勧める。(スカウト―スカウト)
- ・隊指導者からたくさんの事例を蓄積しておきたい。
- ・団、地区、県連等に呼びかけて、彼らが部活動とスカウト活動の両立が可能な方途と地盤づくりを考慮しなければならない。指導者だけの責任とせず、関わりのある諸団体との連携ができるようにしておきたい。(志太)

② (S &P) **中学生になると部活あり、忙しくてスカウト活動ができないので退団したい。理由ははっきりしないが、辞めたい。**

(応 答) 隊指導者は、この運動の目的、理念を自信を持って保護者に説明できるか。またスカウトの指導に当たることができるか。まさしく隊指導者の資質にかかわっている。CS の活動は BS 活動の準備期間である。準備期間だけで終わったら3年間が無駄になるのでは？ 料理は (CS 活動は食べる)、(BS 活動は行う) ことである。

途中で辞めるのは、入団しているメリットがあるのか、どのようなメリットがあるのかないのか、(金銭的なことを含めて) 保護者が勘案してきめることであると思われる。現在の保護者は、「費用対効果」を考えている。

- ・入隊しているの効果を見せなくてはいけない。
- ・スカウトの技能向上の指導を心掛けなくてはならない。
- ・保護者へのこの運動の目的、理念をはっきりと説明できなくてはならない
まさしく指導者の「力」が問われているのだと思われる。(清水)

③ (S &P) **上進してスカウト活動を継続したいが、隊が存在しない。**

(応 答) 他の友隊を紹介し、移籍を勧める。(御殿場小山)

④ (S &P) **夏キャンプ終了後に退団申出。**

(応 答) 上進スカウト保護者集会を開催し、個々スカウトの成長の様子を隊長、副長より評価してもらい、保護者に信頼と期待感を抱く場面を設定。

団委員長は、ボーイ隊への上進の必要性、スカウト活動の素晴らしさを説く。

隊長は、常に保護者の顧客満足度を意識して活動する。

※ 上進率の向上を図るために

- ・スカウト活動（班制度、進歩制度）を充実させる。
- ・隊長（指導者）と保護者との連携強化（満足度を高める責任と指導の充実）
- ・隊長とスカウトのコミュニケーション（進級対応・欠席対応）を図る。
- ・スカウトを必ず進級させる信念を持つ。
- ・育成会、団委員会の充実と隊活動の活性化を図る。 （島田）

⑤（ P ）

女子スカウトの母です。次年度BS隊になりますが、BSは男子ばかり(隊指導者も)で訓練以外に生活面にも不安があるので、上進しないで退団したい。

(応 答) 隊長 → 保護者

- 1 現在のBS活動（CS活動）に魅力がなくなったかを聞く。
- 2 相談事由に問題がなければ継続は可能か聞いて、次年度BS隊に女性隊指導者（副長）を付けてもらうように団委員長にお願いするからと上進を促す。

(応 答) 団委員長

- ・隊長は団委員長に事由の内容を詳細に話し、BVS、CS隊の他の女子スカウトも生活面で安心してBS隊に上進して活動できるように進言する。
- ・団委員長は、団委員会等で保護者ならび隊長の要望に応えるべく、女性隊指導者の任用について、団委員長自ら保護者に伝える。 （磐田）

⑥（ P ）

市外へ転出するスカウト兄妹 BS2 名のケース。県内ではあるが遠隔地で熱海での活動は不出来となる。

(応 答) 団委員長

転出先の団で「スカウト出来るかもしれない」との子どもの声に応え、団から貸与していた制服をそのまま持たせ転出先でスカウトの入団申込み先が解らなければ連絡しなさいと指導した。

（自団のスカウト減にはなんの役に経たないがグローバルな意味での退団防止と考えた。）

両スカウトは転出前市立の小・中学校で不登校問題を起こし、小生は学校との調整に携わったが、転出先ではきちんと登校しており、余裕が出来ればスカウト活動に戻ってくれるものと考えている。 （伊東）

⑦（ P ）

家庭が忙しく、子供たちのスカウト活動と一緒に参加できないし、子供もそんなに活動していないから、退団したい。

(応 答) 団委員長の考察

A君の父親は、ボーイスカウトの経験者でA君の兄弟も入団していました。

ご自宅は、製造卸の業務を商っており、ご家庭の保護者全員が終日業務多忙で、団の保護者の会合への出席もなく、隊での子供さんの出席状況や活動への取組などの報告も行き届かぬ状態でありました。

隊長も業務多忙であり、隊員のご家庭への訪問もままならず、保護者会への出席もないことから、細やかな話し合いやフォローも出来難い状況で、スカウト活動への積極的な出席もなく、自然に活動から遠ざかり、上進を機会に退団をいたしました。

過去に入団していた兄弟も同様な状態で、やはり中途退団をしていた様でありました。

このことは、隊長とスカウトの家庭とのつながりが欠落している事、団全体が情報の共有が出来ていないことや、団委員長をはじめとする各個人同士のフォローによる取り組み方のまずさが原因であると思います。

スカウト運動は、各個人の情熱だけで行うものではなく、組織全体の具体的な役割分担が出来て、初めて永続的な活動の成果が上がるものだと思います。

スカウト活動の理論と実際の活動は、車の両輪のようにかみ合っていないければ、前に進むことはできません。

観念論ではなく、個人の情熱でもなく、実体の報告方法や事実の分析・役割分担・実行等が伴っていないければ、永く続くものではないと思います。(伊東)

⑧ (P)

A君 B君

3月ごろに保護者から少年野球に入って、スカウト活動は両立できずA君はやめたい、B君は表明していないが活動には出られないと申し入れがあった。

(応 答) A君は昨年のキャンプの際、ときに泣きながらだったけど、最後までがんばって、キャンプが楽しかったと話していた事をお母さんとふりかえった。そして夏のキャンプまでなんとかがんばって退団しないほうが良いとアドバイスした。

B君の父兄は、終始消極的で話し合いの機会がなかった。

A君、B君はその後ほぼ出席できずキャンプも出席できずに退団の時がきた。年度末のおわかれ会のときに最後に出席しては？と提案したところ両名元気に参加した。集会の最後にカブ隊で活動した事は必ず大人になって役にたつと言葉をかけて、全員で仲良しの輪をしてお別れした。(三島)

⑨ (P)

塾、習い事が多く忙しいため、本人の意思も固く上進を断念したい。

(応 答) 本人を説得したが、本人に意志が固くて思いとどませる事が出来なかった。ほとんどがスポーツ(野球団 サッカー団)などに入っていたので、土日の集会に出れなくなるのでやめていくが多かった。(沼駿)

【 BS → VS 】

- ① (S) 一緒にボーイ隊で活動していたB君が上進しないから、自分も辞めたい。(夏のキャンプ時) 仲間は部活が忙しそうだからと言っていたとのこと。

(応 答) A君とB君に対し夏キャンプのキャンプファイヤー後に

- ・VS活動はBSと違い少人数、時には個人の活動になるため、自分のスケジュールを管理できれば両立できるかもしれない。
- ・そのスケジュールを管理する能力も自分のためになる。
- ・今までの先輩の多くは部活と両立していたことを紹介。

結果A君B君共にVS活動を続けた。

(三島)

- ② (S) Cさんから同級生のスカウト Dさんが順調に進級し富士章を取得したが、自分はプロジェクトができないので退団したい。

(応 答) Cさんに対し

- ・もちろん頑張って進歩課程をクリアすることも重要だけど、章は結果である。
- ・自分が楽しいスカウティングを行おう。
- ・Dさんと同じプロジェクトをやってもいいし、自分だけのプロジェクト若しくは年少スカウトへの支援等でもよい。

その結果、退団せずVS活動を続けた。

(三島)

- ③ (S) スカウト概要 中学3年8月末 男
①地域でトップの進学校に進みたいのでベンチャー隊には進めない。
②そのために小学5年生から学習塾にも通っている。
③現在学年10位ぐらいで合格が微妙なところである。
④不合格をボーイスカウトのせいにしたくない。
⑤進学したとしてもスカウト活動と両立する自信が無い。

(応 答) ボーイ隊隊長3年目 それまではベンチャーに全員上進していた。

このスカウトはその年に日本ジャンボリーにも参加していたので上進すると思っていました。

①に対しては、「君が行きたい高校に進学してもスカウト活動をしている先輩はいっぱい居る。」

②③に対しては、「高校入学が決まるまではベンチャー活動に参加できなくても良い。」

④に対しては、「もし苦しいのならボーイスカウトのせいにしても良い。」

⑤に対しては、「参加できると自分が判断したときだけ参加すればよい。」

以上の事項を二人だけでじっくり話しましたが、説得できませんでした。

彼の父親が地元の先輩でしたので相談しましたが、「小学校のときからその高校に進みたいために自分で学習塾を探してきた。その望みを叶えてあげたい。」と言われ、私は納得しました。

後日そのスカウトより「望んだ高校に合格が出来ました。ありがとうございました。」と連絡がありました。(三島)

- ④ (P) **本人は続けたい気持ちもあつたようだが、成績不振のため、母親が本人のやっていることを整理させようと、部活動、音楽活動、スカウト活動のうちから何かひとつをやらせるようにした。**

(応 答) 結局本人はスカウト活動を断念した。

- ・ベンチャーの活動について説明し、学校の活動との両立が十分可能なことを伝えようとしたが、具体的な事例を示すことができず、十分に伝わらなかった。

(沼駿)

- ⑤ (P) **発達障害の傾向のあるスカウトで、集会等に参加してしまえば楽しく、問題なく活動しているのだが、計画的な活動が苦手で、集会等の時間と自分のやりたいこと(ゲーム、読書)が重なると集会をサボろうとする傾向があつた。そこを母親が厳しくとがめるので、逃げてしまうこともあつた。**

(応 答) ・家庭の協力をいただき、そのスカウトの自宅ガレージを集会場所としたり、すぐ向かいの小学校の校庭を借りて活動したりすることでずいぶん改善していた。

- ・ところが、母親には「スカウト活動は中学校で終わり」という思い込みのようなものがあって、本人も最初から高校生になってのスカウト活動は考えていないようだった。
- ・本人の在籍する中学校の教頭からは、スカウト活動が本人にとって自信になっているようだとの評価をいただいていたので、母親にも本人にもベンチャースカウトの活動を伝えようとしたが、迷惑がられているような様子も感じられたので断念した。

(沼駿)

- ⑥ (P) **部活中の怪我がきっかけで、関節に問題があることがわかり、屋外での活動では迷惑がかかる可能性があるということで、母親から退団の申し出があつた。**

(応 答) ・直接的には身体的な理由での退団申し出であつた。同学年の2名も上進しない意思を表明していた。この3名はそれぞれ個性の強いスカウトであり、そ

のためか3人の関係にはぎこちなさがあり、スカウト活動に楽しさを見出せていないことが背景にあると推察された。

- ・そのあたりの関係修復には十分に手を尽くすところまでいらず、退団した。
(沼駿)

【 VS → RS 】

① (S & P) **大学生になり、ほとんどスカウト活動ができないので退団したい。**

(応 答) 在籍する大学にローバー隊があるかを確認させ、世界各国でISTとして活躍している仲間がいることを紹介する。原隊の活動のみならず、重登録で活動を継続することを勧める。

活動内容が広範囲になり、自己の人格陶冶に最適であることを知らせる。

(志太)

② (S & P) **趣味が沢山あり、スカウト活動に興味関心がなくなったので退団したい。**

(応 答) 後輩スカウトに、自身の趣味の素晴らしさを伝え、共有することの出来る喜びを味わせたい。そこに、指導者としての資質が芽生える。多くの事に興味関心のあることは、幸福な人生を送るうえで大切なことを伝える。 (清水)

③ (S & P) **アルバイトが忙しくて、スカウト活動どころではないので退団したい。**

(応 答) 時間を上手に使うことの大切さを伝えたい。アルバイトは自らがそれをなし得ていることであり、賛辞するに値することを知らしめる。 (志太)

④ (S) **大学進学により、ほとんどスカウト活動ができないので退団したい。**

(応 答) 地元に戻ってきたときだけでも良いので、是非登録だけでも継続して、後輩スカウトの指導をお願いできないかお願いした。

自己研鑽の為にも、今までの経験を役立ってほしい旨を伝えた。

(結果) 退団した者もいるが、大学のRSに従登録して継続したスカウトもいる。 (三島)

【その他】

① (S & P) 家庭の事情で退団したい。(親が離婚)

(応 答) 本人のスカウト活動が好きであることを、両親に話したかを確認してみる。

(御殿場小山)

② (S & P) 中学入学時の部活の影響

(応 答) スカウトの自主性を重んじる。空いている時間の活用を提案する。(御殿場小山)

「活動するために我々には・・・。」

活動するために我々には、腕や足、頭脳それに野心が与えられている。真の幸福を得るのに重要なのは、消極的であることではなく、積極的であることである。

We are given arms and legs and brains and ambitions with which to be active; and it is the active that counts more than the passive in gaining true happiness.

ボーイスカウト ガールスカウト

「人を指揮するためには・・・。」

人を指揮するためには、その人たちの信頼を得ていなければならないし、そのためには、自分を信頼しなければならない。自分への信頼は、仕事を完全によく知ることによってのみ得られるものである。

You can only command others if you have their confidence, and you can only have their confidence if you have confidence in yourself; you can only have confidence in yourself by knowing your work thoroughly and well.

ボーイスカウト ガールスカウト

B=P 語録

Beden-Powell が残した言葉を！



bpquotations_seesaa_net.htm

より

B-2 カウンセリング事例集

【BVS → CS】

① (保護者)

CS に上進すると、デンリーダーなど親の協力が、ビーバー以上に求められるが、仕事もあるため協力できそうもないのでやめさせたい。

T→P

お子さんは、ビーバー活動で成長しましたか？

ビーバー隊の指導者たちは、いつもスカウトたちのために良いプログラムを提供していますから、きっとスカウトたちは楽しく成長していますね。

カブ隊の指導者も同じ気持ちでお子さんの上進を心待ちにしています。カブ隊に上進すると組活動がありますが、それはとっても楽しく、とても大切な集会です。

まだまだ子供たちだけでは自主運営できない年齢なので、保護者からデンリーダーの役目をお願いしていますが、組のお母さん、お父さんという役目ではないんです。

お仕事が忙しくて、どうしても無理なら他の保護者をお願いすることも可能です。

カブブックを見てサインをすることや、ご都合のつくレベルでの協力を心掛けていただければ十分です。

お子さんは、カブに上進したいと思っていますよ。

(静岡)

② (保護者)

少年野球を始めて、活動に出られないのでやめさせたい。

T→P

過去に両立していた子供も居るし、野球のオフシーズンに頑張ることは出来ないのでしょうか？

結果：最近では昔と違ってオフシーズンが無く、1年中、土日は活動が有るそうです。

(三島)

③ (保護者)

子供が友達を作れないのでやめる。

T→P

BVS年代の子供はまだ集団作りがきかず、個で動く事が多いが、CS年代になると友達や集団を作るように成ります。また、CSはBVSと違って組活動になるので、友達や仲間は沢山出来ます。

(三島)

④ (保護者)

上の隊にいじめっ子が居るので、子供がやめたがっている。

T→P

上隊隊長と相談し、そのような事がないよう監督する。組編成の検討や活動中リーダーに注意してみさせると答えた。

(三島)

⑤ (保護者)

友達も辞めたし、上進する気が無くなってしまい、親の意向は受け付けない。

T→P

6歳の子供に物のよし悪しの判断などつきません。親が判断して、良い活動で続けて行く価値が有ると思うなら、一緒に説得して続けましょう。(三島)

【 CS → BS 】

① (保護者)

母子家庭で仕事の関係もあり、送っていくことができない為、BS上進をあきらめたい。

T→P

送っていけないから、退団させるのはもったいない。スカウト本人は続けたい意志があるようです。スカウト活動の楽しさはこれからですし、お父様がいらっしやらない中で大変でしょうが、これから思春期を迎えるお子様の成長のお手伝いもできます。送り迎えが必要なら、リーダーがお手伝いしますので、ぜひ続けさせてやってください。

最終的にBS隊に上進し、今年で2年目ですが、たのしくボーイスカウト活動を楽しんでいます。(三島)

② (S & P)

中学になると部活が忙しくなるので、CSで退団したい。

T→S

CSの活動はBS活動の準備期間である。準備期間だけで終わったら3年間が無駄になるのでは？ 料理は(CS活動は食べる)、(BS活動は行う)ことである。

T→P

部活の様子がわかってからでも退団するか否かを判断するのに遅くないのでは？

スカウト運動は「BVSからRSまでの一貫教育です」から、途中で退団したのではもったいないのでは

制服はすべて自費で購入してもらっている。「せっかく買った制服」なのでもったいない。(磐田)

③ (S & P)

部活が忙しくなるため退団したい。

T→P

スカウティングの目的は隊集会等の活動だけでなく、子供の成長を如何に助長するかということなのです。

現在の制度では学校教育が優先されていますが、その学校教育における勉学、部活をどのように進めていくかを考える(子供に考えさせる。親が考える。)のもスカウティングの一つと考えています。

もう中学生(高校生)でもあり、集会へはスカウト自身のスケジュール調整に

よって参加すればよく、後で班長や班員に聞けばいいと思います。

このようなことが自分自身で考えられるような子供を育てるためにも、今後もスカウティングへの参加をさせたら如何でしょうか
(浜北天竜)

④ (S)

中学生になり運動部に入部した。練習で毎日帰りが遅く、BS との両立が大変今後塾も忙しくなりそうで、欠席がちで迷惑をかけてしまう。

T→S

運動部で頑張ることは大切だと思います。BS との両立は大変になりますが、君が決めたことですから、どちらもしっかりやれるように努力してみましよう。

隊長も団委員長も応援しますよ。部活の日程や時間が BS と重なるようなら、隊長に心を開いて相談すれば、いろいろ考えてくれるはずですよ。勉強もこれから難しくなるので、BS で辞めてしまう人がいますが、乗り越えて立派な VS や RS になる人もたくさんいます。

君は、どちらの人になりたいですか？

集会に参加できない時でも、家で進級の練習は頑張れると思います。〇〇級を目指して頑張ろう！
(静岡)

⑤ (保護者)

CS はとても楽しく活動させてもらったが、BS になると隊長たちが厳しいようなので、子供が上進したくないと言っています。親から上進するように話してみましたが、本人の意思が固いのでやめさせようと思います。

T→P BS では確かに CS 以上に厳しい場面も出るでしょう。でも同じくらい CS 以上に楽しい活動が待っています。

BS の指導者に不安があるようならば、上進者保護者会をするようにしましょう。まず、保護者の皆さんに BS 隊の指導者や活動について、正しく知っていただきたいと思います。

お子さんに対して、お母さんからお話ししても難しいようなら、CS 隊長から、場合によっては私からお話ししましょう。私たちは、BS 活動の本当の面白さを知っていますから・・・。

CS で辞めたら、この運動の目的は達成できません。

お母さんは、「ぜったい辞めてはいけません」を貫いてください。
(静岡)

⑥ (S)

中学に入ると部活もあるし忙しくなるためスカウト活動はやめます。(小6女子)

S→S 同級生のスカウトが起こした行動です。

「〇〇ちゃんスカウト活動をやめないで！」と書いた紙に同じ班の仲間、他の班の仲間、指導者、団委員長にも廻りながら署名を集め、翌日学校で手渡し継続となりました。

★指導者として、結束力があり仲間意識が強い班作りをサポートしていく大切さが分かりました。(班の中で色々な問題が解決できれば最高ですね！)
(浜松)

⑦ (保護者)

バレーボール少年団に入っており、最後の大会に向けて練習が忙しい。団委員としての手伝いができそうもない。中学でもバレー部に入るつもりなのでボーイスカウトを辞めて専念させようかと思う 女子スカウト(6年生)

T→P せっかくビーバーから続けてきたのだし6年生の仲間が残っているから、せめて卒業までは続けてみてはどうですか。

ただ中学の先輩スカウトでも部活と両方やっている人は大勢いるし、不可能ではないはずですよ。私の息子たちも野球部やサッカー部でしたし、たしかに参加日数は少なくなるでしょうけど・・・

キャンプには夕食の時から来て朝帰るのでも全然構いませんから、もう少し続ける努力をしてみてくださいませんか？

ターゲットバッジも自宅でレポートを書いてくれば取れるものが沢山ありますから、進級できないなんて事は決してありませんよ。

結果、考え直して9月以降も継続してくれる事になりました。(浜松)

⑧ (保護者)

・双子の女子スカウト(6年生)の事例

1人の子が5月頃より登校拒否になってしまい学校に行けていない。

もう1人の子は学校にも行き、ボーイスカウトの活動にも行きたがっているが、1人を残して活動に行くと、ご主人が文句を言う。(お母さんは副長)

現在家庭の雰囲気が非常に悪く、しばらく(下の子が学校に行けるようになるまで)

T ・上手く引きとめる言葉が見つからず3人とも退団する事に(2月までは休隊扱い)なりました。1人の子だけでも続けてくれるとよかったです。残念です。

(浜松)

⑩ (S)

BS(中1)女子スカウト

・ボーイスカウトを辞めて学校と部活に力を入れたい

T 【BS指導者として】

先日 BS活動が続けるのは難しいと連絡をいただきました。

この所、参加ができていないので、きっとBS活動が続けるにあたっての目標や価値観が見出せないのではないですか？

確かにBS活動はスポーツの様に直ぐに結果が出ないし目標を定めにくい活動ですが、人生における大切なものを培ってくれます。

それには時間がかかりますが、一つ一つの活動に取り組みながら身について行きます。

V S隊のHさん(女子スカウト)は、カブ隊では特別皆勤賞を3年間取得する程の出席率でしたが、BSに上進してからは部活と習い事が忙しくなり殆んど活動に出れませんでした。

途中BS活動に価値観を感じられず辞めたいとの思いもあった様です。
VSに上進し、新たに活動に前向きに取り組むようになってこの夏に富士章
取得までこぎつけました。高校生活も部活、受験と大変忙しい中でしたが自分
で時間をコントロールし、色んな事を乗り越えて富士章に見合う素晴らしいス
カウトに成長しました。

(※Hさんの富士章取得にあたってのコメントを紹介)

あなたにもその能力はあります。まずは活動に参加してみてください。
次年は班長年代です。
ボーイ隊の活動をリードしボーイ隊を今まで以上に活発な隊にしていまし
ょう！
(浜松)

【 BS → VS 】

① (S & P)

BS スカウトおよび保護者(母)

保護者(母):保護者の父が、スカウトがBVSからボーイ隊まで続けてきたが、
自分のことすら自分で出来ないと言っている。また、スカウトも続ける意
志がない(一応勉強に専念)

BS スカウトは 横で母の言葉を聞いて居るのみ

vs T 【VS 指導者として】

※ベンチャースカウトの進歩、活動、プロジェクトについて 概要を説明

その後 そのスカウトに合わせた アドバイス

「お父さんは 自分のことすら自分で出来ない」と言っておられますが、
うちのボーイ隊経験者は(基本的に毎月キャンプをしてきてますので)大学生
になって、あるいは1人で生活するようになって、キャンプに比べれば炊
飯器があり(鍋でご飯を炊く必要も無いし)コンビニもあり、1人で生活して
行くについてなんの不安もないのは常識になっていきます。

「一方、自分のことを自分で考え、実行するという事は、まだ出来ないか
も知れない。たとえば、今日のスケジュールは誰が決めた？」

・・・母 「スカウトが 私に聞いてきた」

「そうでしょう！！ 私は上進してきたスカウトに、まず言うのは 「ス
ケジュールを携帯のスケジュールに入れろ」です。かつて第2次成長期(中
学になると)「反抗期が来て、母親とはまともに話をしない事がよくありまし
た。」しかし、今の子どもは「素直で良い子」で、何時までも親(特に母親)
の言うことを、いつまで経っても頼ります。そうすれば「楽」に生きていけま
す。しかし、社会に出るとそうは行きません。「言われたことだけ出来る」
人は、いつまで経っても時給1000円を超えられません。下手をすると会社
の上下関係、プレッシャーに負ける人も出てきます」

・・・母 「私も この子が そうなりそうな気がしています」

※先輩スカウト（保護者が知っている）の富士章面接申請レポートを見せ

「この子の一番はじめのレポートは、ほとんど「口述筆記」です。すなわち「何をやりたい？」 「***をやりたい」、 「何時までにやる？」 「***」 「じゃあ ***を**までにやると書いたら！」と 始めてから、3つめのレポート（プロジェクト）になると、自分で5W2Hを考え実行して、報告できるようになります。 その彼が 今度の団記念誌への記事として「ボーイスカウト活動は一面的な技能だけに留まらず、自らの精神・社交性をも大きく成長させる「もう1つの学校」とも言えるべき素晴らしい活動と考えております。」と書いてきてくれています」

「勉強、部活などとの両立は ボーイよりベンチャーの方が簡単です。U君はテニスをやりましたが富士章を取得しH医科大に行ってますし、Hさんは吹奏楽の部長をやりました。部活でも、言われたことだけやるのではなく、自分で目標を定め、実施すれば立派なプロジェクトになります。」

→「本人が、今、きちんと自立できているなら良いですが、自立できていないのですから、ぜひベンチャーに上進させて、活動させてください」

・・・母 「よく分かりました。家で本人、父親と話してみます」

スカウト「****」

※ 継続することとなった。

(浜松)

② (S)

女の子の上進は、私ひとりで、BS隊にも女子が少ない。上進しようかどうか迷っている。

T

BS隊の活動に何も参加していない現状で、やめるという決断は早すぎると思う。

VB隊に入って、活動をやってみてから考えても遅くはないと思う。女の子が少ないから不安だという気持ちもわかるが、そこは安心してスカウト活動ができるように隊長が考えるので是非、上進してほしい。

この対応として、苦肉の策で少ない女子を一つの班にまとめて、女子班を作った。それと女性リーダーをひとりつけてもらうことにした。

その結果、そのスカウトは、女子を増やそうと、友人をボーイスカウトに誘い、入隊させ一緒に活動して、楽しむようになった。最終的に15NJにも参加しVS隊にも上進した。

(三島)

③ (S)

学校のクラブが忙しくなってきた、勉強や塾にも通わなくてはならず、時間がとれないので、退団したい。

T 学校のクラブが忙しいとか、勉強が忙しいのは君に限ったことではない。他の先輩スカウトもみんな同じ境遇のなかでスカウト活動を続けている。先輩スカウトは、今日はクラブが大切、今度はスカウト活動が大切というようにその時によって、優先順位をきめて、活動にでてきている。来れないときは来れなくても構わない。大切なのは君の時間をどう有効に使うか、今しなければならぬことは、なんなのかを自分の中で整理できるようにすることだ。

今、やめてしまったらそういうことを考えずに、楽な方を取ってしまう人間になってしまう。君の先輩には、1年に1度しか活動に出てこれなかったのに、ジャンボリーに参加した先輩もいる。

だから、続けてみよう。

このスカウトは、BS隊から入団したスカウトだったが、結局その後続けてくれて15NJにも参加してくれた。 (三島)

【 VS 】

① (S)

部活、学業が忙しく、集会に全員が集まることが無い。集会に出席しても活発さがなく、つまらなくなった。ボーイスカウトは嫌いではないが、このまま続ける意味を感じなくなっている。

T→S VS の仲間は、ビーバーから上進してきた気のおけない仲間ですよ。高校生になって、みんな忙しくてなかなか集会に集まらないのは、確かに問題ですが、この仲間はこれからもずっとスカウトで繋がる仲間ではないのかな？ 大学生になっても、社会人になってもずっと付き合える仲間は、一生の友たちです。

君たちの中だけでも良いから連絡は取り合ってくださいね。 (静岡)

【 VS → RS 】

① (S & P)

大学が遠方になり、出席できないので退団したい。

T→P スカウティングの目的は隊集会等の活動だけでなく、子供の成長を如何に助長するかということです。

VS, RS でやっていることは、自分でやろうとしていることを計画から実施そして評価反省までプロジェクトとしてまとめていくプロセスを身に着けることです。これは社会に出てから必要とされることです。

学校は遠方にありますが、地元に戻ってきた時に仲間と語り合うよりどこの場所として活用してもらえれば良いと思っています。

また、今までの〇〇君の体験を後輩たちに伝えてもらえたら大変ありがたいと思っています。今後も〇〇君をスカウティングに参加させていただければ隊長としてもうれしく思います。 (浜北天竜)

【団委員・指導者・保護者リーダー】

副長

隊の運営は隊長一人で行い、私たち副長の存在感なし、初めはこんなものかと我慢していたが、何時までたっても変わらないので退団したい。また年々スカウトが減少している。

団委員長

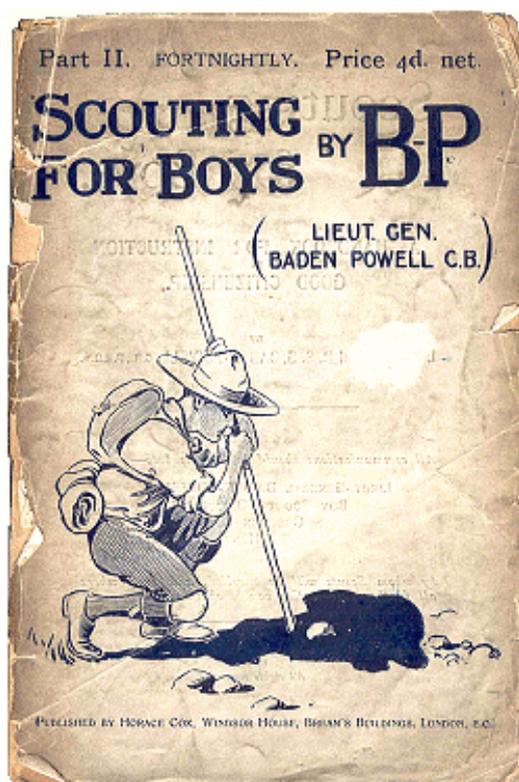
副長の意見等十分に聞き、隊長の考え、また指導方針なども聞き、隊長に的確な指導をするとともに、場合によっては地区コミッショナー等にも指導を願い、隊長が聞き入れなかったら、やる気のある副長に隊の運営を任せ、隊ならびに団の活性化を図る必要がある。(磐田)

団委員

団の委員会役務〇〇委員ですが、団の代表としてそのまま地区の〇〇委員会に所属し奉仕しています。地区運営委員会の委員会出席、地区行事(大会)等奉仕負担が大きく、また運営委員長は団順繰りで、運営委員長は私にはできない。皆に迷惑を掛けるので退団したい。

団委員長

地区運営委員会には、各団から代表委員一名出しており、団委員多数いればよいが、少数団の場合、無理にお願いするような形になります。現在団委員役務を団内で調整して、あなたの奉仕可能な委員になっていただき継続をお願いするとともに、新しい団委員さんになってもらう人を団の責任で確保します。



団年次総会に招待された挨拶の中で

……途中退団対応を意識して……

推進委員会委員長 仲田 始

皆様こんにちは。本日は平成〇〇年度団年次総会おめでとうございます。私はご紹介頂きました地区委員長〇〇でございます。総会にご参加頂いた保護者の皆様、皆様は本当にお子様をボーイスカウト活動に入れてよかったと思っていますか。「本当はスポーツ少年団へ入りたいと思っていたのだけれど・・・」「こんなに活動が大変なら子ども会のイベントに参加するぐらいでもよかったのに・・・」などと考えている方はいませんか。冒頭から唐突な質問をしてしまいましたが、せっかく貴重なお時間を頂きましたので皆様と共に「本当にお子様をボーイスカウト活動に入れてよかったか」検証してみたいと思います。

すでに皆様ご承知のとおり、子どもの成長には欠かせない3つの教育があります。「学校教育」、「家庭教育」そして「社会教育」です。ボーイスカウト活動は社会教育活動です。行政にも認められた社会教育団体です。ただ、スポーツ少年団も子ども会もガールスカウトも社会教育団体です。ではどこの社会教育団体に係わるのが子どものために一番良いか比較しながら検証してみたいと思います。

まずはスポーツ少年団とボーイスカウトです。一定の年代になるとサッカーや野球に関心を示す子どもは少なくなく「うちの子はサッカーに夢中になっているのでボーイスカウトをやめたい」といった相談も良くあります。「子どもの特技を伸ばす」ことは非常に大切なことです。ただ、サッカーにしても、野球にしても相手に勝つために練習しているのですからトップ選手を育成することが主眼になります。いわゆるサッカーであれば11人、野球であれば9人です。後は補欠です。ボーイスカウトにはレギュラー、補欠といった区別はありません。子どもたち一人ひとりが主役です。一人ひとりの成長に合わせて、その子の特性を伸ばすように指導者は支援していきます。また、子どもの成長過程ではまずは人格の形成を図っていくのが大切です。「生きる力を養う」という言葉が良く使われますが、「自ら考え」「自ら行動し」「その行動に責任の持てる」心身ともにたくましい子ども達を育てていくことをボーイスカウトは担っています。スポーツ少年団の存在意義を否定するものではありません。ただ、ボーイスカウトと二者択一を判断するものではなく、生きる力を養いつつ特技も伸ばすといった対応が子ども達の成長のために私は必要と考えています。

次に、子ども会とボーイスカウトです。子ども会でも運動会やハイキング、時にはキャンプを企画しているという話を聞きます。より多くの子どもたちに参加を促すことができるという点では、子ども会の存在価値は大きいと思います。ただ、子ども達の成長のためには継続性が必要と私は考えています。参加しないよりは参加したほうがよいことは当然ですが、年に一度や二度野外活動に参加して子ども達が大きく成長するとは考えにくいのです。ボーイスカウトでは年長年代から大学生年代まで年代に応じたプログラムを提供して子ども達を支援する体制が作られています。

最後にガールスカウトとボーイスカウトです。活動の基本理念や趣旨は全くといってよいほど変わりません。一点だけ異なるのはガールスカウトは「女性の自立を目指している」ということです。従前は男子はボーイスカウト、女子はガールスカウトに加入していましたが、ボーイスカウトでは1990年代後半の男女共同参画法の成立により女子も加入できるようにしました。つまり、男子も女子も同じ環境の中で活動することが法の精神に沿うと考え

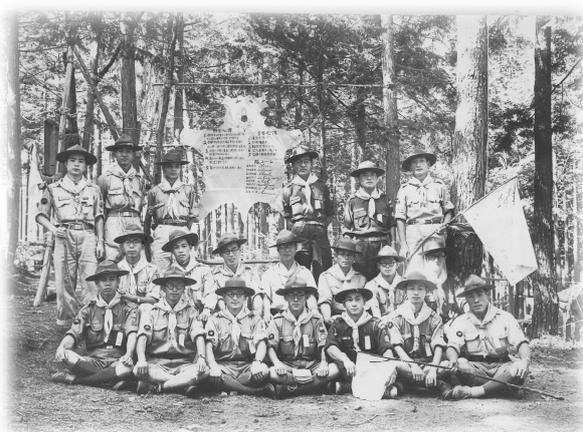
たわけです。それではガールスカウトはいらないかというと、地域社会の中でも女性の地位向上が十分とはいえない状況であることを考えればその存在は大切にしなければならないと思います。異性との活動に違和感を覚える女子がいるとすればガールスカウトをお勧めします。

以上、ボーイスカウトと他の社会教育団体を比較して検証してまいりましたが、私は子ども達の成長を支援する組織として、ボーイスカウトほど良く出来ている組織は他に例を見ないと考えています。

野外活動をとおして大自然に触れ、時には多くの感動や達成感を味わい、時には厳しい自然環境にさらされる中で、子供達が「自ら考え」「自ら行動し」「そして、その結果に対し責任の持てる」豊かな心と生きる力を育み、併せてグループ活動をとおして、共に生きることの大切さとリーダーシップを学んでいきます。子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、他の子どもとの比較ではなく、その子自身の成長を継続的に支援していきます。どうか、保護者の皆様一人ひとりがボーイスカウトにお子様を加入させたことに自信を持って、時には励まし、時にはじっと我慢して暖かく見守り、スカウトの卒業年齢まで継続させて頂きたいと思います。

ちょっと長くなってしまいましたが、私は、ボーイスカウト活動が子ども達の成長期の支援に非常に効果的であることを確信しています。今後もボーイスカウト活動が地域社会により広く根ざすために努力していくことをお誓いして私の挨拶に代えます。

有り難うございました。



ケーススタディー (1)

・双子の女子スカウト(6年生)の事例

1人の子が5月頃より登校拒否になってしまい学校に行けていない。

もう1人の子は学校にも行き、ボーイスカウトの活動にも行きたがっているが、1人を残して活動に行くと、ご主人が文句を言う。(お母さんは副長)

現在家庭の雰囲気が非常に悪く、しばらく(下の子が学校に行けるようになるまで)活動に参加するのを休止したい。

T ・上手く引きとめる言葉が見つからず3人とも退団する事に(2月までは休隊扱い)なりました。1人の子だけでも続けてくれるとよかったです。 (浜松)

上記のケースについて考察

グループ1

- ・登校拒否の子供は、もっと両親が寄り添い育てるべきである。他の一人の子には活動を続ける様説得をする。

グループ2

- ・日頃のBS活動がどうであるか聞き取る必要がある。一方、お父さんから家庭の様子や、子供さんの様子を伺い、もう一人のお子さんが学校に行けるようになるまで、休隊扱いとし観察を継続する。指導者、団委員は良き相談相手であることを忘れてはならない。
- ・隊長へ……スカウトからみて、活動に魅力が無くなったのでは？
「学校に行けるようになったら、また出てきてね」の寛容の精神。
……場合によっては、団委員長との協議により、母親に休団して頂く。

グループ3

- ・子供を健やかに育てるいちばんの基本は、両親が仲よくすることです。子供は生活力がないので、常に保護者を見ています。子供が育つのに必要なのは、生活での“安心感”です。両親が共通の“子育てについて”価値観を持つ必要があります。一時、母親は指導者の立場を休止し、ご主人共々子供と向き合う時間を多く持ってもらったらどうでしょうか。
お父さんも活動に行きたがっているお子さんと、ボーイスカウト活動に参加する機会を持ったらどうでしょうか。
まず、両親が登校拒否の子供に対して最大の関心を持ち、スカウト活動が家族での共通話題となり、仲間や周囲の大人(団委員、指導者たち)との心の触れ合いが、少しでも心の安らぎになれば、改善の光は見えてくるのではないのでしょうか。

グループ4

- ・母親は、指導者を休止し、子供やご主人と向き合う時間を十分に取れるようにしたほうがよい。
- ・団として“登校拒否”スカウトとその問題をクリアできるような関わることは、かなり難しいと思われる。なかなか、家庭の問題まで踏み込めないのが実情である。ただ、状況が落ち着きを取り戻すまで、お母さんには指導者としての負担を軽減できるように配慮してあげたい。副長の任を解いて、団委員で継続していただき、何時でも子供さんとスカウト活動に参加できるよう門戸を開けておきたい。

グループ5

- ・団として、真向登校拒否打開のために、家庭内に入り込むことは難しい。専門的な相談員やカウンセラーを紹介し、連携しながら見守ることは可能である。ただし、カウンセラーの守秘義務の範囲での情報やアシスト方法の指示を受けることとなる。
- ・団関係者、指導者自らも“登校拒否”に関する学習も必要である。一人一人個性の違うスカウトを立派に育成するためにも！
- ・お母さんの負担軽減を図り、家庭内にいる時間を増やせるようにしてあげたい。

ケーススタディー (2)

上進時(ビーバーからカブスカウト)に保護者から退団の申出

グループ名 A

- ① 同じビーバー隊の仲良しの子が、塾や習い事で忙しくなり辞めるようですが、うちの子供が、それなら僕も友達がいなくなってしまうのでやめたいと言っているから、これを機会にやめさせようと思います。
- ② 入団してみて、仲間が少なく期待しているほど団体生活や協調性が育っていないようだから、この際、スポーツ少年団で鍛えようかと思っています。

- ・保護者の意見、都合（デンリーダーなどの役務が回る）で退団を申し出るケースが目立つので、コミュニケーションを密にとって、スカウト活動は家庭（親）の協力が如何に大事かを理解してもらう。
- ・リーダーが積極的に働きかけても、やめていくスカウトは仕方がない。無理に引き留めるのはどうかという考えもある。
- ・親がやめさせるのには何かがある。団、指導者として謙虚に現状を顧みる必要がある。
- ・親に活動を理解してもらうには、指導者がより頑張るしかない。
- ・スポーツ少年団の良さを理解しつつ、ボーイスカウト活動が生涯一貫教育であることを十分説明する。
- ・親がスポーツ少年団に求めているニーズをしっかりと知ることが大切であり、そこからアドバイスや慰留を含むコミュニケーションが生まれると思う。
- ・BVS, CS の活動を一緒におこなっても、きちんと分別化して活動の目的がずれないように

にする。

- ・知的障害、情緒障害など特別支援学級児童の入団相談が増加している。ボーイスカウト活動への期待は大きい。健常スカウトと共にプログラムを展開した時、共に満足できない内容となってしまうことがある。従って、指導者は多動等障害を持つ児童の支援法についてしっかり研修し、理解したい。
- ・教育委員会や地域の特別支援学校の先生を招いて懇談会を開催し、小学校の先生や障害児を持つ保護者が我々に期待することを把握する。(集団における協調性を高めるために)

上進時(カブスカウトからボーイスカウト)に保護者から退団の申出 グループ名 B

- ① 小学校6年生から、中高一貫教育の進学校を目指したいので、今から勉強に力を入れ、ぜひ目標の中学校受験に合格するよう準備をしたい。本人もそれなりに人生設計を考えているようだし、親としてもスカウト活動をやめて、勉強に専念できるように応援したい。
- ② 息子が入団してすぐにボーイスカウト講習会に参加しました。ボーイ隊の人数も少なく、そこで聞いた班活動や隊活動ができるのか心配です。なにか、スポーツ少年団で好きな運動をやらせたほうが良いと思うのでこれを機会にやめさせたいと思う。
男一人きりの子なので、たくましくさせるためにもそうしたいと思います。

- ・スカウト活動ができないほど勉強しなくても大丈夫。今までもこの段階で受験のために退団したスカウトはいません。どうしても心配なら、塾などのこともあると思いますので、出席を減らしてみたらどうでしょうか。
- ・勉強だけが人生ではないと思います。野外活動や仲間たちとの活動体験は、将来生きてきます。地震などの災害時に率先して行動を起こした方々は、スカウトやその経験者が多いです。
- ・スカウト活動で体得したものが、自身の将来に役立つのはもちろんですが、人のためにも役立ち、誰からも信頼される人になれますよ。
- ・本人の意思を知りたいので面談します。子供さんの心の中には、少しでも続けたい気持ちがあるのではないのでしょうか。彼が活動を続けながら勉強に力を入れられる環境を考えましょう。
- ・カブスカウトの経験が活きるのはボーイになってからです。優先順位は勉強でしょうが、ぜひお子さんにボーイ隊活動が楽しいか(ジャンボリー見学から参加しようへ)を伝えてください。
- ・何のための受験かもう一度考えてみてください。人生のゴールを高校、大学受験にしてしまうような気がします。
- ・少人数でも目的を目指した活動はできます。地区や県での活動もあります。日本ジャンボリーや世界ジャンボリー、海外派遣などを目指して活動を続けてみてください。活動の面白さが湧いてくるでしょう。
- ・少人数でも思いやりの心を育てられます。異年齢集団の良さがいっぱいあります。「生きる力」がプログラムを通して自然に身に備わってきます。
- ・スポーツ少年団とボーイスカウトの目的の相違点、類似点を明確に伝える。

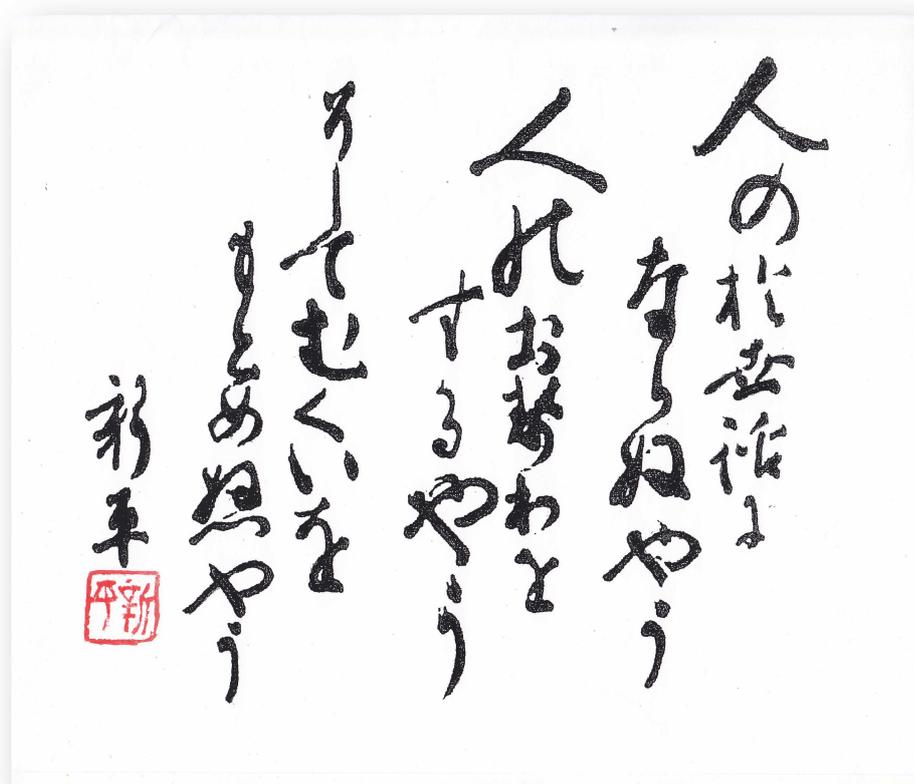
- ① 高校生になると部活に入らなくてはいけないので、スカウト活動があまりできなくなると思います。スカウト活動を続けていると、高校の部活の先生や仲間に迷惑をかけるので、ベンチャーに上進するのを辞めたいと思います。
また、高校卒業後は大学進学を考えているので、夜は塾にも通い勉強のほうも力をつけたいです。
- ② うちの子は、有名大学に進学してもらい、将来安定した人生を送ってもらいたいの
で、なんとしてでも希望する大学に合格してもらわなくてはならない。スカウト活動ど
ころではないので退団させたい。

- ・ボーイスカウトまでやればもう十分だという考えはどうか。自分で考えて、好きな行動がとれる。プロジェクト挑戦だよ。ある意味自由に活動ができて活動しやすくなるよ。
- ・自分で考えることで、時間の遣り繰りがうまくなり、活動の範囲がぐんと広がる。地区の中にもたくさん仲間ができるようになる。仲間とのコミュニケーションのとり方次第で大学や世界情勢、趣味などの情報が拡大する。自分作りにはいいチャンスだよ。
- ・学校が別々になってしまい、部活動などまちまちであろうから夜の時間をうまく作って集会ができるようにしている。
- ・ベンチャー隊から育成会費の負担額を軽減している。
- ・お互いメールなどを利用して連絡を取り合い、ある部分自主的かつ積極的にクルーの活動をしている。先輩スカウトの話聞くようにするから、参考になると良い。
- ・海外派遣経験スカウトの話聞くことにより、ベンチャー時代に得られる国際感覚や将来の目標設計構築のことを知り、夢のある活動へとつながる。

- ① BVS CS: うちの子は多動であり、それを承知でボーイスカウトに受け入れて下さったのに仲間の皆から無視されたりいじめを受けているようなので、預けるのが心配です。だから退団させたいと思います。
- ② CS 他の子はたくさん記章をもらってつけていますが、うちの子はまだ2つしか貰っていません。うちの子の出来の悪いのは分かっていますが、もう少し何とか指導してくれても良かったのではないですか。なにかうちの子だけが差別されているようでやめさせたいと思います。
- ③ BS・VS:学校の勉強がおろそかになって、成績もよくありません。スカウト活動は面白くて参加しているようですが辞めさせたいと思います。
- ④ この前の隊集会に出ましたが、実は部活動をさぼってしまい、顧問の先生や仲間につつく怒られました。部活を辞める訳にはいかないのですが、やめさせてください。

- ・いじめや無視の実態を十分に把握できていないとなれば、大変なことです。普段の活動は楽しそうで、仲間とうまくやっているようです。ぜひお母さんも集会に参加されて様子をご覧ください。この年代から多くの仲間と戸外で遊んだり工作をしたりすることで、性格や立ち居振る舞いに良いものが見えてくるような気がします。
- ・カブスカウトのターゲットバッジなどの修得には、指導者として働きかけや詳細のチェックが不十分であったので細部ににわたり目配り、心配りをするように注意します。また、家庭の協力も大切ですのでぜひお子さんのためにも協働していきましょう。
- ・自然体験が多く得られている子どもは、学習能力や対人関係がうまくいっているとのデータが文科省から発表されています。仲間との野外活動は素晴らしいものです。
- ・ベンチャースカウトになると、興味関心のある事柄をさらに研究して、将来の人生にそれを生かしている者が少なくありません。夜間ハイクで星座に興味を持ち、大学では宇宙工学を学び研究所に勤務、香りの観察ゲームなどを通してハーブや香辛料に興味を持ち、現在は大手食品会社に勤務、キャンプや野外料理が好きで陸上自衛隊に勤務など数えきれません。少年時代に人生（人格）の基礎が作られていると思います。単に机上の学習では得られない沢山のことを得ていると思います。
- ・先輩であるローバースカウトや指導者、そして保護者の姿はスカウトにとってとても良い「背の声」となっています。
- ・入団してくるスカウトとその保護者は、幾つかの期待を持って仲間になります。途中で活動が嫌になったり、迷って退団したいということは、期待が薄れてきたということなのではないだろうか。

何がそうさせたのかを考えるに「スカウト—保護者—指導者—団委員」のコミュニケーションが十分に取れていないと考えます。ビーバー、カブ部門では家庭訪問や保護者会を通して、スカウト、指導者、団委員、保護者の相互の理解を得ておくことが大事だと思います。日頃から団内において、一人のスカウトに対して多くの大人のかかわりを大切にして、懇ろに訓育することが大切だという結論に至りました。



団委員長からの手紙 2006. 9. 8

=== 上進時の励まし ===

(CS から BS 上進の女子スカウトへ)

三指

2学期が始まりましたが、今年の夏休みは思いえがいていたような休みが過ごせましたか。

キャンプの時に、日本人は世界でも少ない普通の人立派な人種だというような話をしたと思いますが、小中学生のころは何でも体験して本もいっぱい読んで感性(かんせい)をつんで、自分の物にすることが大切だと思います。

今なにげなくやっていることが、将来いきてきます。もともとボーイスカウトの目的は立派な社会人をつくることですが、そんなむずかしいことは考えなくても、ぜひ〇〇さんにはボーイ隊に上進して、これからも活動してもらいたいと思っています。

〇〇隊長や他のリーダー、団委員も皆のことを思って一生けんめい協力しています。

将来の心豊かな生活のためにガンバレ！！

明日また丸火で会いましょう。

弥栄

ボーイスカウト△△第□□団 団委員長 ○○○○

※平成 23 年 VS 上進時に退団。残念！

(CS から BS 上進の男子スカウトへ)

三指

ボーイ隊上進おめでとう。

4 人の熊スカウトがそろって上進できたことはすばらしいですね。日ごろのチームワークのおかげだと思います。

人に個性は必要ですが、皆が協力しあうということはもっと大切だと思います。

〇〇君にも立派な個性がありますね。ビバーの時から見ているとよくわかります。家族をはじめ、まわりの人達など恵まれた生活の中で、その個性をハッキリしてこれからのボーイスカウト生活を楽しんで立派な心豊かな大人に成長してください。

弥栄

ボーイスカウト△△第□□団 団委員長 ○○○○

※少年野球にも所属、姉、妹共にスカウト。姉は 2009 年富士スカウト、3 名共に登録継続中

(CS から BS 上進の男子スカウトへ)

三指

ボーイ隊上進おめでとう。

4 人の熊スカウトがそろって上進できたことはすばらしいですね。日ごろのチームワークのたまものだと思います。

人に個性はもちろん大切ですが、皆が協力しあうということももっと大切だと思います。

〇〇君にも強烈(きょうれつ)な個性がありますね。その個性と家族、リーダー、スカウトの協力が△△団で初めてスーパーカブ章を取得でき、おもとになっているのではないかと思います。

ボーイスカウト活動の特ちょうの一つに進歩制度がありますが、これから先まだまだ挑戦して楽しい課題がいっぱい待っています。

ボーイ隊には、一級章の上に菊章があります。紺色の中に白い菊の花の模様がスカウト章を囲んでいるものです。△△団では 25 年前に、現在の団委員の〇〇さんともう一人が取得しただけだと思います。ベンチャー隊の富士章は△△団ではいまだ手にしたスカウトはいません。ぜひ挑戦してみてください。

〇〇君がこれからのボーイスカウティングを通して、感性をみがいて心豊かな大人に成長していくのをたのしみにしています。

弥栄

ボーイスカウト△△第□□団 団委員長〇〇〇〇

※2009 年、父親の転勤により移籍。弟は 16NJ 静岡 7 隊に参加。

(CS から BS 上進の男子スカウトへ)

三指

2学期が始まりましたが、今年の夏休みは思えがいていたような休みが過ごせましたか。

この頃はいろいろな事件が新聞やテレビをにぎわせています。暗いニュースが多い中で、高校野球の決勝戦の両チームの頑張りは素晴らしかったですね。両投手の活躍には、あの一心さにはさわやかなものを感じました。特に昔は身体的な構造で北海道の高校が夏の大会で優勝することはあり得ないと言われていましたが、それが三連覇にあと一息のところまで行ったのですから、努力すれば何事も達成できるんだなと驚きました。

ところで、間もなく△△団の上進式を迎えますが、私は〇〇君にはぜひボーイ隊に上進してもらいたいと思っています。キャンプの時に、話したようにスカウト活動全般を通して、中身の一番充実しているのがボーイ隊です。今まで君が体験したプログラムより数倍も楽しいことや苦しいことに出会うかもしれませんが、これから成長していくうえでは、必要なものだと思います。ちょっとおおげさですが、人間にとって何が大切かということにも出会えるかもしれません。

〇〇隊長をはじめ、他のリーダーも団委員も一生けんめい協力をしていきます。

〇〇君の上進を待ち望んでいます。

弥栄

ボーイスカウト△△第□□団 団委員長 〇〇〇〇

※少年団野球に属し、中学 2 年に部活動に専心のため退団。母親が CS 副長で継続中。

推進委員会

仲田 始	委員長
鈴木喜代志	伊東地区
土山惟之	三島地区
川島一郎	沼駿地区
藤曲敏春	御殿場・小山地区
杉山 満	富士地区
野中 仁	富士宮地区
杉山 繁	清水地区
北村 誠	静岡地区
川村 進	志太地区
柴田伸二	島田地区
牧野勲夫	掛川・袋井
鈴木 均	磐田地区
西村清矢	浜松地区
近藤 孝	浜松東地区
今村春幸	浜北・天竜地区
※ 白井豊章	組織拡充委員会委員長

東部ブロック幹事	藤 曲 敏 春
中部ブロック幹事	川 村 進
西部ブロック幹事	近 藤 孝

編集後記

スカウト登録者減少は、なかなか歯止めがかからない昨今です。
子供たちを取り巻く社会現象の激変、高齢化社会、出生率低下などを嘆いていても
はかどりません。
今、私たちに何ができるか。
何を如何したらスカウトの仲間を一人でも増やすことができるのか。
どうしたらスカウト活動の素晴らしさを多くの方々に広め、理解してもらえるのか。
などなど、課題は山積しています。
一朝一夕では、問題解決はかないません。誰もが迷い、悩みを抱えています。それ
らを共有しながら、日々、B-Pの教え「スカウティング・フォア・ボーイズ」の原点に戻りつ
つ、これらの課題に取り組んでいくことが「鍵」となると思います。
「ちかい」「おきて」の実践こそが根源であろうかと思えます。
平成25年度のテーマへの取り組みの一端を小冊子にまとめてみました。